

河内川ダム建設の無駄と無謀 その③

河内川ダム建設工事に係る

関西電力熊川発電所へのダム補償金に疑惑 16

（小浜市） 松本 浩

福井県（杉本達治知事）は、河内川ダム建設に係る関西電力発電所の導水路付替工事補償の名目で、平成30年度に9,000万円、平成31年度に6,400万円の予算を計上し支出したが、該当する付替水路工事はダム本体工事費からの支出金で賄い、補償工事費1億5,400万円は闇に消えた。

令和3年4月23日の文書開示に際して福井県河川課の幹部職員は、平成30年度の補償工事費の予算総額に記載ミスがあったと弁明した。

「平成30年度補償工事費の額の99億9100万円が記載ミスでした。……ダムの本工事費（ダム費）から補償工事費（付替水路）に転用した費用を補償工事費に記載しなかったミスです」と。

その際、転用の具体的金額には言及せず筆者も聞こうとしなかったが、令和3年7月29日に開示された公文書（令和元年度河内川ダム事業費精算総括表・右表）による補償工事費実績246,266,762円から試算すると転用額は9085.3万円と推定される。

平成30年度補償工事費総額99億9100万円に本工事費から9085.3万円を転用したと仮定すると補償工事費総額は100億8185.3万円となる。

平成30年度迄実績99億2936.7万円を差し引いた令和1年度残額予算として2億3400万円が計上されているので、計算される令和1年度現在の補償工事費総額は101億8336.7万円である。

令和1年度は平成30年度補償工事費総額に8151.4万円増額されたことになる。

さて、それでは令和1年度予算234,000,000円に相応する同年度補償工事費の精算実績246,266,762円（下図・精算総括表）の工事内

事業費精算総括表（河内川ダム）

事業名：河川総合開発事業

（単位：円）

費目	金額	備考
事業費	(2,755,000,000)	
工事費	(2,755,000,000)	
本工事費	(2,440,500,000)	
ダム費	(2,327,500,000)	
管理施設費	(113,000,000)	
仮設備費	()	
工事用動力費	()	
測量設計費	(55,500,000)	
用地費及補償費	(259,000,000)	
補償費	(25,000,000)	
補償工事費	(234,000,000)	
船舶及機械器具費	()	
事務費	()	
事業費負担区分	(2,755,000,000)	
公共事業費	()	
電気事業費	()	
上水道事業費	()	
工業用水道事業費	()	
特定かんがい事業費	()	
	220,400,000	
	24,795,000	
	39,947,500	

容を検討してみよう。

「補助事業完了実績報告書」である。

注) 精算総括表は、福井県知事杉本達治が令和3年6月29日に国土交通大臣赤羽一嘉に提出した

補償工事費実績 246,266,762円 の具体的な工事内容は、本稿締切に間に合わないので取り敢えず推測する。

①付替水路工事 64,080,000 円

河川課によれば、「64,000,000 円は河内川ダム建設工事 1-3・1-4 に使われた」。

- ・同工事 1-3 (ダム下流橋梁下部工事・付替水路法面補強工事)
令和1年6月18日請負契約 請負金 50,930,000 円 (本工事費)
工期 令和1年6月19日～2年2月13日
〃 ～2年3月27日 (令和2年3月2日変更)
〃 ～2年5月29日 (令和2年3月23日変更)
財源変更 令和2年5月28日 本工事費 29,203,827 円
(小浜土木事務所稟議書) 補償工事費 26,235,777 円
- ・同工事 1-4 (ダム下流河内川根固ブロック製作据付・付替水路法面補強工事)
令和1年6月18日請負契約 請負金 60,984,000 円 (本工事費)
工期 令和1年6月19日～2年2月13日
〃 ～2年3月27日 (令和2年2月4日変更)
〃 ～2年8月13日 (令和2年6月11日変更)
財源変更 令和2年6月11日 本工事費 39,532,821 円
(小浜土木事務所稟議書) 補償工事費 24,792,567 円

上記 1-3・1-4 の補償工事費合計は 51,028,344 円 である。

2件ともに補償工事(付替水路 6400 万円)の使途工事としてはあり得ない。

また、補助金交付決定に際して国は次の交付条件を定めている。

(1) 本事業の実施について次のいずれかに該当する場合は、あらかじめ、国土交通大臣の承認又は指示を受けなければならない。

イ. 本事業に要する経費の配分の変更(軽微な変更を除く)をする場合。

ロ. (以下省略)

もともと、補償工事費を本工事に使用するすること自体が許されることではない。

しかも、工期末になって事務所内の稟議書で配分変更することなどは到底許されることではないし、認められることでもない。

これは、付替水路工 6400 万円を他(関西電力)に流用した事実を隠蔽するための文書偽造であり犯罪である。

②次ページ「付替町道工事一覧表」による補償工事費 142,798,024 円

③次ページ「付替町道工事一覧表」の本工事費による付替町道工事費 69,416,12 円になるが、52,440,394 円 と県担当者は発言。

以上、これまで見て来たように、関西電力熊川発電所導水路の補償工事として予算化さ

れた平成 29 年度補正の 2 億 400 万円、平成 30 年度補正の 9000 万円、平成 31 年度(令

和1年度)当初予算の6400万円はいずれもその使途が不明であり、国の交付金の横領である。

合計 3億5800万円の公金は、付替水路工

に名を借りた架空工事代金であり、関西電力内部の不祥事の尻拭い金として闇に消えた。

西川一誠前知事と杉本達治知事の罪は重く、責任は重大である。

令和1年度の河内川ダム建設工事に係る付替町道工事一覧表 (前号を下記に訂正します)

工事名	請負契約日	請負金額 (円)	財源	工事概要ほか
付替町道1-1	1. 4. 25	19,828,800	補償工事費	防護柵工 1,557m
付替町道1-2	1. 4. 17	2,462,400	補償工事費	
付替町道1-3	<u>1. 10. ?</u>	<u>8,382,000</u>	本工事費	<u>6,665,366</u> 補償工事費 1,715,795
付替町道1-4	1. 8. 14	51,400,000	本工事費	林道補修工事
付替町道1-5	1. 9. 25	13,398,000	補償工事費	舗装工 4,120 m ²
付替町道1-6	1. 9. 3	18,557,000	補償工事費	落石防護柵 269m
付替町道1-7	1. 9. 3	15,796,000	補償工事費	落石防護柵 309m
付替町道1-8	1. 9. 3	19,987,000	補償工事費	落石防護柵 300m
付替町道1-9	1. 9. 19	19,998,000	補償工事費	植生工 1,290 m ² 他
付替町道1-10	1. 9. 18	2,409,000	補償工事費	防護柵工 184m
付替町道1-11	1. 12. 4	18,876,000	補償工事費	落石防止網 1,430 m ²
付替町道1-12	1. 11. 26	2,310,000	補償工事費	舗装工 300 m ² 他
付替町道1-13	1. 12. 16	2,479,950	補償工事費	管理施設工 2 基
付替町道1-14	1. 12. 16	2,486,000	本工事費	<u>1,850,780</u> 補償工事費 635,240
付替町道1-15	1. 12. 10	2,464,000	補償工事費	植生工 232 m ²
付替町道1- <u>16</u>	2. 3. 16	1,880,000	補償工事費	植生工 254 m ²
付替町道1-17	2. 6. 24	9,500,000	本工事費	落石防護柵 64m 他

以上合計金額 212,214,150 円

補償工事費 142,798,024 円 (補償工事費予算の 99. 75 %)

本工事費 69,416,126 円

(前号訂正) 21 ページ右段 6 行目 7000 万円 → 1 億 7000 万円